令和６年度　教員地域貢献活動支援事業（学長裁量事業）

地域実践研究　成果報告書

本事業について次のとおり成果を報告します。また、当該事業の経費執行については、規程等を遵守し適正に使用しました。

１　研究課題名

学生コンサルタントによる金沢区を拠点とする中小企業の経営課題の探索と改善提案：LINKAI 横浜金沢で働くことの魅力のビジュアル化を目指して

２　研究代表者

氏名・所属・職位	伊藤智明・国際商学部・准教授

3　連携相手先

組織名	特定非営利活動法人 Aozora Factory

4　研究体制

氏名・所属・職位	後藤優・研究・産学連携推進センター・スタートアッププロデューサー
氏名・所属・職位	石田翔太・国際マネジメント研究科・客員研究員

※連携相手先以外で、本事業に協力した・参画した機関等（該当がある場合記載）

組織名	

５　この研究活動の概要

本研究の目的は、経営学分野の学術的な知識に基づく経営実践への関与の一手法であるプロセス・コンサルテーションと質的心理学で提唱されているビジュアル・ナラティヴの手法を用いて、金沢区の地域課題の一つである「地域魅力の認知不足」の解決に寄与する示唆を得ることである。この示唆を得るために、本研究では、プロセス・コンサルテーションの手法を学んだ学生（横浜市立大学国際商学部）と、LINKAI 横浜金沢に集積する企業で働く人びととの交流のための場づくりに取り組む。加えて、「金沢区で働くこととウェルビーイング」をテーマにした絵画の共同制作に取り組むことで、継続的な活動基盤を整備していく。

６　この研究を実施する目的

本研究の目的は、経営学分野の学術的な知識に基づく経営実践への関与の一手法であるプロセス・コンサルテーションと質的心理学で提唱されているビジュアル・ナラティヴの手法を用いて、金沢区の地域

課題の一つである「地域魅力の認知不足」の解決に寄与する示唆を得ることである。この示唆を得るために、本研究では、プロセス・コンサルテーションの手法を学んだ学生（横浜市立大学国際商学部）と、LINKAI 横浜金沢に集積する企業で働く人びととの交流のための場づくりに取り組む。加えて、「金沢区で働くこととウェルビーイング」をテーマにした絵画の共同制作に取り組むことで、継続的な活動基盤を整備していく。

金沢区の「地域魅力の認知不足」という地域課題は、主要な地域課題の人口減少や高齢化と強く関わるものである。主要な地域課題に対処するためにも、LINKAI 横浜金沢に集積する企業の活性化と魅力発信は、不可欠である。また、金沢区に人びとが集まる状態をつくるためにも必要である。

尚、本研究で達成したい目標は、金沢区の地域企業での学生によるフィールドワークや金沢区での地道な産学連携（日常的な産学の交流、共同）が「金沢区の地域に根差した活動として常態化すること」である。

７　実施した内容（スケジュールと具体的な活動、実績、成果）

・2024 年 6 月 8 日(金) に特定非営利活動法人 Aozora Factory 代表理事の本多竜太氏に「金沢区で働くこと」をテーマにご講演いただく。講演後には、学生 5 名（国際商学部）とディスカッションし、本プロジェクトのテーマを「地域企業における採用と人材定着」に決定した。

・2024 年 6 月 28 日 (金) に特定非営利活動法人 Aozora Factory のご協力のもと、藤森工業株式会社（現 ZACROS 株式会社）の横浜事業所、株式会社ヨコハマ機工の本社で「地域企業における採用と人材定着」をテーマにインタビューを実施。インタビュイーを西澤秀史氏（藤森工業 横浜事業所 横浜・研究総務課長補佐）、吉倉千秋氏（藤森工業 横浜事業所 横浜・研究総務課）、横田勝氏（ヨコハマ機工 代表取締役社長）、梅宮さや香氏（ヨコハマ機工 専務取締役）に担当いただく。インタビュアーを学生 4 名（国際商学部 3 年）が担当。コーディネーターを本多竜太氏（Aozora Factory 代表理事）が担当。

・2024 年 11 月 9 日 (土) に特定非営利活動法人 Aozora Factory のご協力のもと、横浜市金沢産業振興センターで開催された「PIA フェスタ」に出展。「魅力あふれるまち金沢」をテーマにした絵画の共同制作に取り組む。LINKAI 横浜金沢の企業や金沢区出身の芸人、子ども連れ、地域の高齢者など 200 名近くの方々に参加いただく。ファシリテーターを日本画家の石田翔太氏（国際マネジメント研究科 客員研究員）、アドバイザーをスタートアッププロデューサーの後藤優氏（研究・産学連携推進センター 特任教員）に担当いただく。学生 4 名（国際商学部 3 名、他大学 1 名）が制作協力で参加。

・2024 年 12 月 2 日 (月) に横浜信用金庫の塚越貴浩氏（エリア統括長（南部エリア担当）執行役員）、白井努氏（南部エリア チーフアドバイザー）、朝倉圭氏（南部エリア チーフアドバイザー）、藤山静夏氏（南部エリア ライフアドバイザー）、12 月 27 日 (金) に塚越氏、目黒豊氏（営業統括部地域連携課 マネージャー）、白井氏と「横浜信用金庫と横浜市立大学の連携によるスタートアップ支援」をテーマにディスカッションを実施した。実施場所は両日とも金沢八景キャンパスになる。ここでのディスカッション内容は一般社団法人全国信用金庫協会の機関誌『信用金庫』に寄稿された。

※　職位・所属はすべて当時のもの

8　この研究により得られた効果と自己評価

・地域課題を解決するために、地域企業の経営課題に着目し、その経営課題をどうすれば解決できるかを検討し、実行することができれば、社会的な価値（地域金融機関の発展、学生の教育効果、地域企業の事業成長などへの寄与）を提供できる可能性がある。こうしたアプローチで社会連携を実現していくための構想を提示することができた。

・これからの金沢区での社会連携活動につながる基盤づくりである。この活動をしたことで、横浜市金沢区の地域企業や地域金融機関で働く方々との関係づくりができるなど、地道で継続的な取り組みの価値を実感できた。

・地域に根差したスタートアップ支援（中小企業支援）を推進していくためには、金融機関と大学の連携が鍵になることを理解できた。金融機関と大学の連携を推進するための枠組みを検討していく状態になった。

9　今後の課題と展開

・本学による金沢区での社会連携活動の継続性や発展性を担保するための仕組みづくりが重要になってくる。2025 年度以降、どのような人びとがどのように交流し、どのような情報がどのような人たちの間でやりとりされると金沢区の住民、地域企業、金融機関、行政、大学などの関係者が連携し、社会課題を解決できるか、グランドデザインを描き、共有していくことを目指す。地域企業、金融機関、行政、大学などによる社会連携プロジェクトを推進するための構想の「言語化、視覚化、組織化、公共化」というプロセスモデルを提示する必要がある。

・上場や M&A を出口戦略とするスタートアップ創出に加えて、ボトムアップ型のスタートアップ支援も資源が分散しない形で大学として展開していくことを目指す。

・制作物をどこで展示できるのか、事前に検討し、打診した上での実施が必要である。また、どのようなメディアにどのように取り上げてもらえると理想的か、この活動の狙いを事前に明確にした上で、戦略的に推進する必要がある。金沢区で産学官民金が一同に集まれる施設の候補を列挙しておく。

・2025 年度には、地域貢献コーディネーターの宮田純一氏の協力で金沢区役所の職員にも関与してもらえることになった。

10　本事業に関する研究発表、メディア掲載等（予定を含む）

メディア掲載

横浜市立大学地域貢献センターホームページ

2024.11.09 横浜市金沢区“金沢産業団地”の秋まつり「PIA フェスタ（ピアフェスタ）2024」に商学部の伊藤智明准教授の研究チームが出展しました。

https://www.yokohama-cu.ac.jp/Contributions/news/2024/20241109_piafes.html

伊藤智明 (2025).「『よこしん』と『よこいち』の連携による横浜でのスタートアップ支援のための構想案」『信用金庫』*79*(3), 48-52.